

2016年

第2回

I.B.Sニュース

若手経営者、後継者向け 第4期 アイオー・ビジネススクール活動報告

発行:  アイオーしんきん

セミナーの報告

本年10月からスタートした「第4期アイオー・ビジネススクール」は、11月25日(金)、第2回セミナーを開催しました。

今回の講義は、「環境分析から現状を捉える」というテーマで、環境分析に基づく事業の現状の捉え方について講師の(株)タナベ経営マネジメントパートナーズ本部部長代理の西山英男様に実践的で中身の濃い講義を行っていただきました。

最初に、「企業の本質的な性格」についてです。企業は「環境適応業」であり、経営者は企業が生き残るために将来の経営環境を予測し、新しい手を打っていく必要があります。企業は潰れるようにできています。70%の企業が赤字経営であり、平成27年に倒産・廃業した企業は1時間当たり1.01社、創業後10年生き残れる企業は30%、50年生き残れる企業はわずか5%しかないという厳しい現実があります。企業が永年存続するためには、環境に適応するとともに事業承継によりタスキを繋いでいかなければならないことから、企業はゴールの無い駅伝競走に例えられます。

次に、「戦略の基本」についてです。戦略の第1原則は「捨てる勇気」を持つことです。あれもこれもではなく、あれかこれかの選択と決断をしなくては競争に勝てません。戦略の第2原則は自社が「何を」「誰に」価値提供しているのかをハッキリさせ、「勝てる場」を見つけることです。戦略の第3原則は「ニッチ市場を狙う」ことです。大企業と同じ土俵で戦っても勝ち目はありません。大企業が参入してもメリットがない「小さな市場」を狙うことが重要です。

最後に、「SWOT分析で自社の戦略を導き出す」についてです。前述のとおり、企業は「環境適応業」です。企業が事業環境の変化に適応し、生き残るための経営戦略策定方法の一つに「SWOT分析」があります。「SWOT分析」とは、内部環境である「強み(Strength)」と「弱み(Weakness)」、外部環境である「機会(Opportunity)」と「脅威(Threat)」という4つのカテゴリーで要因分析する分析方法で、それにより自社の事業の現状を捉え、事業環境変化に対応した経営戦略を導き出すことが可能となります。

講義の後半には、受講生が自社の事業の現状を捉えるため、自社について「SWOT分析」を行い、実践力を養いました。

※次回セミナーのテーマは「経営数値から現状を捉える」です。会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

参加者の声(抜粋)

- ・自社と照らし合わせながら受講できる内容だった。(30代 製造業)
- ・時代の流れをととてもよく考えられて大変勉強になりました。先々の事を考える必要があると思いました。(30代 飲食業)
- ・先の読みは現状を甘えなく見て、すてる。これは大事だと気付かせて頂きました。(40代 設備・電気工事業)



講義の様子



